

# 春夏秋冬



武蔵野会ニュース No. 164 平成29年1月15日

発行 社会福祉法人武蔵野会

本部 東京都八王子市台町1-19-3 TEL042(623)8509

<http://www.musashinokai.jp/>

## 新年のごあいさつ



池尻稲荷神社での奉仕活動  
(世田谷区立世田谷福祉作業所)

### ト ー ク 施設訪問

毎年施設長に本部に来てもらって行っている施設長面談を、今年度は3年ぶりに私が全施設を訪問して行うこととし、10月から12月にかけて、全25施設を無事に終了しました。

さくら学園では、全室個室となった新生活棟で「見て、見て！」と自分の個室を見せたがる利用者がおられたり、成人の入所施設であった小平福祉園では、建て替えに合わせて通所の児童発達支援センターを併設したことから、元気な子ども達の声が響き渡ったりして、うれしい気分になりました。

さね川福祉作業所では、かりんとう饅頭の生産開始に向けた準備が進行中でしたが、就労支援系の各施設では利用者の方々の「働く」を支える取組がさらに活発化していったように感じました。また、生活介護系の施設では、利用者の方々の高齢化や障害の重度化が見られ、その対応を多職種の連携や外部資源の活用、勉強会等により積極的に進めていきました。

施設により地域性の違いを楽しめるのも武蔵野会ならではのですが、各施設それぞれに、地域福祉の中で積極的に役割を果たしているところと工夫努力をしていたのも印象的でした。総じて、私が福祉の世界に入った40年以上と比べて、現在の福祉施設は単体ではなく、社会のネットワークの大きなダイナミズムの中で活動していると、実感した訪問でした。施設長からは、自施設の利用者サービス面や管理運営面等における課題と対応、施設の中長期的な方向性等について、経営の視点を据えた報告を聞くことができました。

また、今後の武蔵野会の世代交代を意識して、各施設の管理職や役職者とも個々に面談をしましたが、高い意欲や日々の献身的な取組等を聞いて、改めて感銘を受けました。

人手不足への対応等、厳しい課題もありますが、今回の訪問を法人全体の取組に活かしたいと思っています。

社会福祉法人武蔵野会 理事長 上野 純宏

# 謹賀新年

理事長 上野 純宏

後援会長・評議員 石谷 暢司



昨年は、く  
ら学園と武蔵野  
児童学園、八王  
子福祉作業所の



年始にあたり  
会員の皆様のご  
支援に感謝申し  
上げます。昨年

全面改築の竣工や、社会福祉法の改正を受けての法人定款の変更等がありました。

本年は、変更された定款に基づいて再編される理事会と評議員会、新設される運営協議会や会計監査人等、新たな経営組織の下で、法人事業のさらなる進展を図っていくこととなります。

利用者の方々の高齢化や障害の重度化への対応、地域公益活動の展開等も重要な課題です。

法人一丸となって取り組んでまいりたく、皆さまの変わらぬご支援をお願い申し上げます。

## ご支援に感謝し、 倍旧のご協力を

## 法人役員挨拶 (順不同)

【理事】



青木 昌子

職員と利用者  
が一体となった  
支援は、やさしさと希望に満ちて  
います。今年もそのやさしさと、  
希望のつながりが、大きく膨らみ  
育つことを、側面から応援したい  
と思っています。



渡辺 瞭

職員と利用者  
が一体となった  
支援は、やさしさと希望に満ちて  
います。今年もそのやさしさと、  
希望のつながりが、大きく膨らみ  
育つことを、側面から応援したい  
と思っています。

昨年、相模原市「津久井やまゆり園」で起こった福祉関係者の犯した犯罪に心が痛みました。  
新年を迎えるにあたり「感謝」思  
いやり」といった基本を思い出し、  
自分が何故福祉の仕事を選んだか  
を再確認して明るい一年にしたい  
ものです。



村山 悦正

庭先の朝顔  
が、夏を過ぎ晩  
秋の季節を迎えても元気に咲き  
誇っていました。さすがに54年ぶ



りの雪には勝てず、残された沢山のつぼみが、紫とピンクの大輪に蘇ることは叶いませんでした。  
生命の尊さを実感し今季も心を込めて大切に育てるつもりです。

事ぶりに大感激して帰りました。今や介護は世界中で喫緊の課題です。その中で最も大事なものは、サービスとそれを支える気持であることを再確認しました。



廣本 肇

時間をひとの  
ために使うと新  
しい出会いと絆が生まれます。  
手を携え結び合うと小さな輪  
(環) が大きくなり優しさが胸の奥  
まで届きます。



今坂 康志

新年あけまし  
ておめでとご  
ざいます。今年も利用者の方々、  
ご家族の方々のご健康を心よりお  
祈り申し上げます。

いのちとは自分の使える時間の  
こと。触れ合った思い出を大事に。

私は、医師になり30年の節目を  
むかえました。増々精進し日々の  
臨床に心をつくしてまいります。



青木 秀雄

日夜のご尽力  
に厚く感謝申し  
上げます。社会福祉の向上が、今  
日ますます強く要請されておりま  
す。本年も相変わらず、隣人愛と  
深い洞察で、利用者様の生活の質  
向上のためにご精進下さいますよ  
うお願い申し上げます。



高橋 信夫

今年は改正福  
祉法施行の年で  
す。改正の波に飲まれることなく、  
波に乗って、利用者支援の向上を  
中心に、法人経営全般にわたって、  
理念をもとに推進していけるよう  
に頑張りたいと思っています。



谷口 健吉

新年明けまし  
ておめでとご  
ざいます。  
武蔵野会で働いている職員の皆  
様のおかげで、利用者さん達は、  
安心して笑顔で生活をされてお  
ります。  
今年も、心も身体も健康にして  
利用者さん達に接して下さい。

金森 仁

先日、中国政  
府幹部が西水元  
あやめ園を視察し、同施設職員の仕事



今年「西」と  
り年。「西」

の字の意味は、果実が成熟の極限  
に達した状態を表しているそうで

## むさしの 武蔵野

あやめカフェ  
認知症カフェ

「2025年問題」

が話題に上るようになったのは  
1990年代の後半でした。団  
塊の世代の方が75歳以上の後期高  
齢者となり、国民の3人に一人が  
65歳以上、5人に一人が75歳以上  
という超高齢者社会を迎えること  
から生じる問題です。少子高齢化  
が更に進み、将来の課題と不安を  
象徴する言葉として衝撃的に広が  
りました。既に団塊の世代が65歳  
を迎え、目前の課題となりました。  
同時に、認知症の方が700万  
人を超えるという課題も上げら  
れています。ある認知症研修で  
精神科医の講師の方が、「認知症  
になる一番の危険因子は加齢で  
す。これだけ沢山の高齢者が認知  
症なら、もう自然な老化現象と捉  
えても良いでしょう」と話をされ  
てました。「長生きすれば認知症  
になれると考えるべき」というの  
です。

「認知症に関する世論調査(内閣府) (平成27年) では、「認知症の人と接したことがあるか」の問いで、「ある」と答えた方が56.4%もいます。さらにその中で「家族の中に認知症の人がいる(いた)」が最も多く43.5%でした。既に認知症の問題を身近に感じている方が沢山います。  
認知症の方が増えることで、認知症の身内を介護する方も増えます(私のその一人です)。介護を通じて感じた切なさや切実さの体験が増えます。また、不安と疲労の介護の毎日の中の暖かい言葉のありがたさと優しさを知る方が増えます。その経験の中で、私たちが忘れかけていた、「老いを迎える寂しさと辛さ、人を思いやる優しさや痛み」を否応なしに見つめ直す機会に遭遇するのです。  
当園では、認知症カフェを始めました。まだまだ駆け出しですが、それでも集ってくれる近所の高齢者の方やボランティアの方、介護の経験者がいらつしゃいます。700万人の力にはなり得ません。ただ何人かの方の集いの場所としてお一人お一人の長寿をお祝いし、認知症になっても足を向けたい優しい拠所となるようにしたいと思っています。

西水元あやめ園

施設長 富山 孝行





八王子福祉作業所  
施設長 松岡利明



練馬区立北町福祉作業所  
施設長 川野文幸



世田谷区世田谷福祉作業所  
施設長 伊藤久美子



八王子生活実習所  
施設長 安田喜人



世田谷区立烏山福祉作業所  
施設長 野々村武志



練馬区立光が丘障害者地域生活  
支援センター「すてっぷ」  
所長 石野拓朗



小平福祉園  
施設長 多々良康子



練馬区立大泉町福祉園  
施設長 金子陽介



リアン文京  
施設長 山内哲也



千代田区立障害者福祉センター  
施設長 須永 正

本年もよろしくお願いいたします  
社会福祉法人武蔵野会職員一同



練馬区立光が丘福祉園  
施設長 横尾泰朗



さくら学園  
施設長 宮原康輔



武蔵野児童学園  
施設長 山田貴美



法人本部職員



練馬福祉園  
施設長 我妻 弘



八王子市心身障害者福祉センター  
施設長 峯尾常雄



すぎな愛育園  
施設長 福元 興



第2大島恵の園  
施設長 岡部智彦



大島恵の園  
施設長 大島安彦



希望の里  
施設長 山内ゆきみ



東堀切くすのき園  
施設長 金澤正義



西水元あやめ園  
施設長 富山孝行



白鳥福祉館  
施設長 吉倉美佐子



きね川福祉作業所  
施設長 大和田卓



世田谷区立九品仏生活実習所  
施設長 村山俊彦



世田谷区立駒沢生活実習所  
施設長 木村文孝

## 日本福祉大学提携 社会福祉法人 防災担当者研修

11月15・16日に日本福祉大学提携社会福祉法人防災担当者研修が行われました。日本福祉大提携社会福祉法人とは、日本福祉大が日本の各地にあるその地区を代表するような大きな規模の社会福祉法人と連携し、社会福祉に関する意見交換や、研究事業を展開するものです。現在14法人が連携をしています。

毎年法人を代表する人たちが集まり提携社会福祉法人サミットと称した会議を行っています。昨年の日本福祉大提携法人サミットで、防災担当者研修会を定期的に実施するということになり、最初の研修会場に武蔵野会が選ばれりアン文京で実施しました。

今回は、提携法人14の内、武蔵野会を含む12法人が参加しました。札幌の慈啓会さんや岡山県

岡山中央福祉会さん、その他仙台や香川県や兵庫県など全国から集まりました。研修会の目的は、①災害に対するそれぞれの法人の災害対策強化、②災害発生時の提携法人の連携強化の2点です。

①の災害対策強化に関しては武蔵野会として、法人が取り組んでいる災害対策についての説明をしました。各施設のBCP（事業継続計画）作成の取り組みや、施設長以下管理職の防災士資格取得、本部から遠距離の地区への衛星電話の配置、セコムによる職員の安否確認システムの導入などについて説明をしました。お土産として法人の大規模地震時のBCPを持ち帰っていただきました。

②の災害発生時の連携強化では、それぞれの法人が備えている備品を提示し、非常時の物資支援の強化としてはという意見が提出され、2月のサミットで提案されることになりました。

大規模災害が発生すると、広域で被害が出ます。東京を中心とする武蔵野会でも、全域に被害が及ぶ可能性もあります。日本全国に広く提携法人があり、連携ができていることは心強い限りです。

研修では、日本福祉大の山本准教授による「災害時に備える二つ



のソウゾウリヨク」の講演とそれに基づく意見交換がありました。災害を想像する想像力と、災害を想定しながら平常時を創造する創造力が必要という内容で、被災する前に何をしておくのか考える研修となりました。BCPをより実効的なものにするために「今の段階で何が足りなくて、何の準備が必要なのか」、意見を出し合い、考え抜くことが必要だと改めて感じました。



## 大島地区 支援実践報告会

11月26日（土）に大島地区の実践事例報告会を開催しました。本部から上野理事長と高橋本部長、また地元から第三者委員の佐藤委員と関野委員に出席を頂きました。今年度の報告は両施設で各3事例ずつの6事例とし、報告時間を10分としました。

内容は、「人間関係に置きながらも地元建築会社のアルバイトをしながら車の運転免許を取得し、地域での生活を目標に取り組んだもの」、「こだわりに対する生活場



熱心に聞き入る

面の工夫」、日中活動について両園で1事例ずつ、地域参加から参画へというテーマでは、「地元青年団とのボランティア活動の交流で波浮港の清掃を行った事例」と、「虐待防止委員会の取り組み」についての報告がされました。虐待防止委員会の事例は、虐待防止のイメージを変え、毎月標語を掲示する他、一緒に働く仲間の素敵な支援に目をむけてた「Good Jobメモ」の取り組みでした。

## 法人栄養士研修

武蔵野会では昨年度より栄養士が共通に抱える問題解決の一助を目的にした「法人栄養士会」を結成し、「サイボウズ」掲示板上で相互学習、情報交換をしています。

その一環として11月22日に法人栄養士研修が開催され、各施設栄養士18名が参加しました。内容は各施設の摂食・嚥下困難者事例に基づいた栄養ケアの習得や食形態についての学びです。栄養ケアでは、各施設の取り組みや課題についてディスカッションを行い、参加者から積極的な意見が多数出ま



さくら学園の報告

した。食形態では、事前課題により各施設の状態を情報交換し、演習では「さくら学園ソフト食」の調理方法等を学びました。これは、食形態変更を目指している施設にとって有意義な時間となりました。福祉施設における栄養士の役割は、利用者の高齢化や重症化、業務の複雑化等によって年々、多様化しています。しかし、施設での栄養士はひとり業務が多く、情報不足から発展性が乏しくなりがちで、ますます横のつながりが必要になっていくと感じています。研修で出た課題は、引き続き掲示板を通じて法人栄養士全員で解決していきたいと思っています。

## 施設あれや これや

### 八王子心身障害者福祉センター

12月に35回目となる「ふれあいコンサート」が開催されました。障害をお持ちの方など11組86人の方が出演されました。今年は八王子市制100周年を祝し、100に因んだ曲も披露されました。

### 世田谷区立九品仏生活実習所

今年のお祭りは、模擬店のメニューもリニューアル。新メニューの中でも、チュロスを利用者の方や、子供たちに人気。一番に売り切れ、好評でした。

### 第2大島恵の園

12月4日に地域行事である「ふれあいまつり」に参加しました。普段、活動で作っているクラフトの籠や簡易ゴマ等を地域の子供達と一緒に作成しました。

### 八王子福祉作業所

新しい施設が完成し、引き渡しも終わりました。1月21・22日に引越します。23日から作業を開始し、製菓班で作ったケーキ等を販売する喫茶店も開業します。

### 練馬福祉園

開設32年の練馬福祉園は、昨年からは生活棟の床改修工事を実施し、今年はA・B・C棟の工事を

進めています。他に非常用電源設備などの工事も3月までに完了し、安心で快適な環境となることを期待しています。

### 小平福祉園

昨年度から保育実習で受入を行っている東京純心女子大学、篠原保育専門学校と連携をして、学習会を行っています。50名近い学生が小平福祉園に集まり、知的障害の方（自閉症）の支援について学んでいます。学生の方に福祉の仕事に興味を持って頂けるようにしていきます。

### 東堀切くすのき園

今年度で満15歳を迎えます。利用者が安全・快適に通所出来るよう、開所以来運行中の送迎バス4台を年度内に全て新車にします。1月には八王子生活実習所、白鳥福祉館、大島恵の園両園と一緒に第2回くすのきART展を地元堀切で開催します。

### すぎな愛育園

10・11月、親子遠足としてクラス毎に羽村市動物公園に出かけました。サルやキリンなど、間近に見える動物にきげげになる子ども達。お母さんの作ったお弁当にも大満足で、楽しい1日を過ごしました。

# お知らせコーナー

## 1月

- 4日 団体帰省帰路  
【大島恵の園・第2大島恵の園】  
新年会・もちつき【東堀切くすのき園】
- 5日 新年会・成人を祝う会  
【世田谷区立世田谷福祉作業所】
- 7日 成人式 【八王子生活実習所】
- 13日 新成人を祝う会・新年会  
【世田谷区立九品仏生活実習所】  
成人式・新年会【世田谷区立駒沢生活実習所】
- 18日・26日 お楽しみ給食 【東堀切くすのき園】
- 21日～25日 第2回くすのきART展【東堀切くすのき園】
- 25日 第170回理事会 第15回評議員会
- 28日 実践事例報告会 【葛飾地区】

## 2月

- 4日 わがまち楽習会 【葛飾地区】
- 5日 故人を偲ぶ集い  
【大島恵の園・第2大島恵の園】
- 19日 会食レク 【第2大島恵の園】
- 24日 バイキング【世田谷区立九品仏生活実習所】  
実践報告会 【八王子地区】
- 25日 会食レク 【第2大島恵の園】
- 28日 音楽会 【八王子生活実習所】

## 3月

- 3日 春のつどい【世田谷区立駒沢生活実習所】
- 16日 第171回理事会 第16回評議員会
- 17日 桜の集い【世田谷区立九品仏生活実習所】

# 赤い羽根共同募金 八王子地区



八王子地区では、赤い羽根共同募金活動に職員全員が参加しています。今年は、11月30日、12月9日・16日の3回に分けて実施しました。すぎな愛育園の保護者会も募金活動をしていただきます。武蔵野児童学園では、子どもたちも自主的に参加します。夕方の6時から1時間、八王子駅の北口に



寒い中での募金活動

立って、協力をお願いすると、寒い中で足を止めて下さる方が多くいます。わざわざ遠くから寄り道をして募金に来てくださるなど、皆さんの温かいお気持ちに触れるひと時でもあります。



1つ500円

「ストロベリーカスタードデニッシュ」です。芳醇なバター風味のデニッシュ生地、甘みを抑えたカスタードクリームとストロベリーをトッピングし焼き上げています。ぜひお試しください。

# ショーケース

## 自主生産品紹介

### 新商品

## 小平福祉園

パンと憩いの店フローラ

☎042・433・9330

フローラでもとても人気のある

## 希望の里

酉の置き物

☎042・654・7311



大 1,000円 中 800円  
小 300円

新年の置物を販売いたします。酉年の由来は諸説色々ありますが、酉年の人の特徴として、「親切で世話好き」とあります。親切な人との出会いを願い、表情、羽の動きに力を入れ、利用者にとって一つ丁寧に磨いてもらいました。出来映えは如何でしょうか。

## 武蔵野会後援会

社会福祉法人武蔵野会が経営する25施設と6つのグループホームの利用者のために、より良い環境や施設の充実・施設の円滑な運営などを、物心両面から支える組織として、武蔵野会後援会があります。皆様のご理解とご協力により、会の拡大をはかり、法人の運営基盤の確立を応援していますので、ご協力をお願い申し上げます。

〒193-0931

東京都八王子市台町 1-19-3

電話・FAX 042-626-9772